



# 看農連携・看工連携で 介護する側もされる側も 笑顔になれるケアを提案したい

これまであまり例を見ない「看護学と農業の連携」により、「第7回モノづくり連携大賞」特別賞を受賞。研究のきっかけや取り組み内容について伺いました。

医学部 看護学科 教授

はら さちこ  
原 祥子

わたしの研究の原点は、看護師としての9年間の実務経験です。勤務していた急性期病院で入浴介助をしていたとき、ある患者さんから「あんたも(お風呂に)どうかね」と言われたときの、ふっと肩の力が抜けて癒された瞬間は、今でも忘れられません。



## 看護学と農業という 異色の組み合わせから生まれた、 「ローズ水」を用いた芳香療法

島根県の高齢化率は全国第二位であり、85歳以上の認知症有病率は40%を超えると言われていた(厚生労働省研究班の調査による)。

原教授の専門は、老年看護学。高齢者とその家族、そして介護スタッフを笑顔にする心地よいケアについて研究していた折、奥出雲蓄微園の社長と出会った。

「医療・福祉領域で心身の痛みを持つ高齢者に対して、蓄微を役立てられないか」という思いを受けて始まった共同研究の末、誕生したのが「認知症高齢者の入浴ケアにおける『さ姫』ローズ水を用いた芳香療法」だ。

「介護老人保健施設のケアスタッフにとって、認知症高齢者の入浴の援助は、困難を感じる場面のひとつ。なぜなら、認知症高齢者の中には羞恥心から入浴を

拒否する方や、体調不良を上手く伝えられずに攻撃的な行動をとる方もいらっしゃるからです」

(原)。そこで、攻撃性や興奮等の心理・行動症状を緩和する芳香療法に注目。認知症高齢者が入浴を開始する約10分前から、脱衣室と浴室にリラクゼーション作用をもつローズ水を気化式加湿器で散布したところ、対象者が穏やかな感情になることが分かったのだ。それにより、ケアスタッフの負担も軽減されることが窺えた。

この研究は、独創的な産学連携モデルを表彰する「第7回モノづくり連携大賞」において特別賞を受賞。「あまり例を見ない『看護学と農業の連携』という点が評価されたようです。私としても、地元・島根の地域力を発見・向上できたことがとても良かったと思います」(原)。

## 認知症高齢者の語りを引き出す、 看工連携によるソフトの開発をめざす

原教授のもうひとつの取り組みに「スマートライフストーリーシSTEM」の開発がある。これは高齢者の語りを引き出すソフトの開

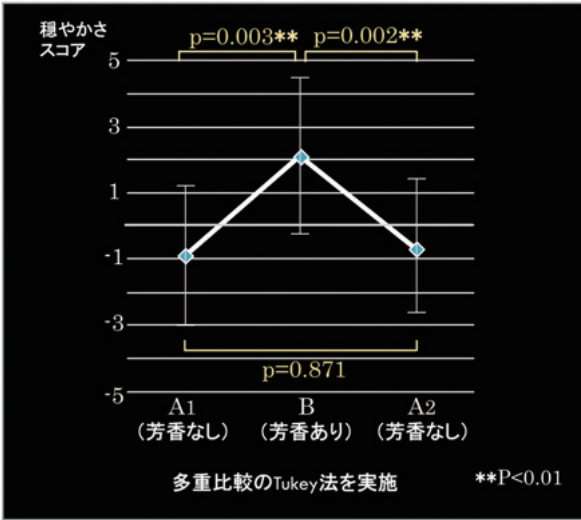
発で、本学大学院総合理工学研究科と連携した研究となる。

「高齢者が人生を振り返り、他者に話したり書いたりする行動



奥出雲薔薇園独自の薔薇「さ姫」から作ったローズ水を、気化式加湿器で散布。

「ローズ水」を用いた芳香療法による感情評価の平均値。芳香ありの時「穏やかさスコア」が高くなることが分かる。



## 第7回モノづくり連携大賞」表彰式&記念フォーラム

主催 日刊工業新聞社 モノづくり日本会議



「第7回モノづくり連携大賞」表彰式にて。左から、中村教授(産学連携センター)、原教授、竹田助教(看護学科)、福間社長(奥出雲薔薇園)

### 注目キーワード

#### 高齢者のクオリティオブライフを高め、 「健やかに老いるための「老年看護学」とは？」

「老年看護学」とは、人生の最終章である老年期を、いかに楽しく幸せに、その人らしく生きていくかということを考える学問で、少子高齢化という社会の流れを受けて誕生した。

高齢者といっても、健康な方から疾病を持った方、要介護や認知症など、身体機能は人それぞれ。その特性や社会生活を理解し、健康とクオリティオブライフを高める援助、あるいは穏やかな死を迎えるための援助の基礎となる理論的知識と技術について学ぶ。さらには、高齢者を支える家族のサポートも重要な課題のひとつ。これからの高齢社会において、ますます重要度が高まっていくことが想像できる。

が自尊心を高め、自身の肯定につながります。実際に、高齢者の言葉数が多くなったり、イライラが解消されたりするケースが確認でき、ケアスタッフとの関係が円滑になることも(原)。ケアスタッフからも「高齢者の過去の生活をイメージしやすいので、話のきっかけや話題が広がる」との声が。そのため、高齢者から話を引き出すノウハウを介護現場で普及させるためのソフトを、2年後をめどに開発中だ。タブレット端末に写真などを表示しながら、スタッフが高齢者の語りを円滑に引き出せるノウハウを詰め込んだものになる計画。



高齢者の語りを引き出すソフト開発を紹介する新聞記事。各メディアで取り上げられ、注目度の高さが伺われる。(写真は2013年1月11日山陰中央新報)

究』ではなく『高齢者一人ひとりの生活を豊かにするための研究』を続けていきたい。そのためには、手間やコスト面まで考え、暮らしの中で継続できるようにシステムを提供できたらと思います(原)。